

「本物。鹿児島県」 可能性への挑戦

新年、明けましておめでとうございます。

県民の皆様には、かねてから、県政の推進に多大な御支援・御協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

現在、我が国は、グローバル化の進展や人口減少、少子高齢化の進行など大きな変革期を迎え、これまで構築されてきた様々なシステムでは十分な対応が困難となりつつあり、将来に対しての不安感や閉塞感が広がっております。加えて日本経済の再生をはじめ、国・地方を通じた財政健全化、持続可能な社会保障制度の構築や安全保障を巡る問題など多くの課題に直面しております。

このような社会の変革期の中にあつては、県民一人ひとりが生涯安心して働き、安定した生活を送ることができるよう、県民生活に直結する医療や福祉、介護、教育などの分野に特に重点をおいて、「かごしま将来ビジョン」に示した「安心・安全」、「活力・快適」、「共生・有徳」の3つの視点を基本に、「日本一のくらし先進県」の実現のための施策を推進し、県民の暮らしの安定を図ることが重要であると考えております。

さて、昨年は奄美群島が日本に復帰してから60周年、また、ブラジル鹿児島県人会創立100周年を迎え、更には、「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」がユネスコへの世界文化遺産推薦案件として決定されるなど、先人たちの御労苦や新たな未来に向けて果敢に挑戦した姿に改めて思いを致した年でありました。

一方、国内最大規模となる「鹿児島七ツ島メガソーラー発電所」が発電を開始し、全国小水力発電サミットが鹿児島市で開催されるなど、



再生可能エネルギーなどの分野において新たな取組が始められた年でもありました。

本年は、大正3年1月12日の桜島大正噴火から100年を迎えます。噴煙を上げる雄大な桜島は、鹿児島島のシンボルであり、様々な恵みをもたらす一方、火山と共に生きる我々にとっては防災の備えも重要であり、100年を一つの節目として、桜島大正噴火の教訓を後世に伝えるとともに、県民の防災意識の高揚を図ってまいりたいと考えております。

また、本県の豊かな自然や個性ある歴史・文化、多様な食材など全国に誇れる「本物」の素材、今後の経済発展が期待される環黄海経済圏の中心地であるソウル、上海、台北と直接結ばれるなど、南に開かれたアジアの玄関口としての地理的優位性、我が国の食料供給基地としての役割など、多くの発展可能性を最大限に生かしながら県勢の更なる浮揚発展に取り組んでまいります。

今後とも、時代の状況変化に的確に対応しながら、「子どもからお年寄りまですべての県民にとって優しく温もりのある社会」の形成を目指し、県民の皆様と一緒に鹿児島島の新たな未来を創造するため、全力を挙げて取り組んでまいりますので、引き続き、県政に関心をお寄せいただき、御支援・御協力くださるようお願いいたします。

新しい年が、県民の皆様にとりまして、輝かしく幸多い年となりますことを心から祈念いたします。



平成二十六年元旦
鹿児島県知事 伊藤祐一郎

トカラウマと御岳／十島村中之島

鹿児島県天然記念物に指定されているトカラウマとトカラ富士の愛称で呼ばれている御岳